



平成24年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年11月10日

上場会社名 塩水港精糖株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2112 URL http://www.ensuiko.co.jp
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)浅倉 三男
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役管理グループ長 (氏名)安戸 久仁彦 TEL (03)3249-2381
 四半期報告書提出予定日 平成23年11月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	15,454	9.5	473	△37.1	677	△27.1	△580	—
23年3月期第2四半期	14,109	5.2	752	35.7	928	11.5	622	4.6

(注) 包括利益 24年3月期第2四半期 285百万円(350.8%) 23年3月期第2四半期 63百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	△21 62	—
23年3月期第2四半期	23 18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第2四半期	26,442	5,495	20.8
23年3月期	27,748	5,345	19.3

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 5,495百万円 23年3月期 5,345百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	—	0.00	—	5 00	5 00
24年3月期	—	0.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	5 00	5 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	29,700	4.5	920	△19.5	900	△21.5	△450	△144.8	△16 75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(平成23年11月10日)公表の「平成24年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と決算値との差異および通期業績予想の修正に関するお知らせ」を参照してください。

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

24年3月期2Q	35,000,000株	23年3月期	35,000,000株
24年3月期2Q	8,139,601株	23年3月期	8,139,601株
24年3月期2Q	26,860,399株	23年3月期2Q	26,860,539株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

業績予想に関する事項につきましては、【添付資料】4ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) セグメント情報等	11
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) 重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、長引くデフレに加え、東日本大震災の影響による厳しい状況から個人消費に持ち直す動きが見られるものの、世界的な景気減速懸念や円高の長期化等の要因により先行き不透明な状況で推移しました。

当第2四半期連結累計期間の海外原糖市況は、期初27.44セント（ニューヨーク市場粗糖先物相場（期近限月の引け値、1ポンド当たり。）以下同じ。）で始まりましたが、2011/12砂糖年度における世界砂糖需給が大幅な供給過剰になるという予想から5月上旬に20.40セントまで下落しました。しかしその後、大幅な増産が予想されていた主要生産国ブラジルの産糖量が下方修正されたため、8月には当期間最高値の31.85セントまで値を上げました。9月に入ると、欧州の一部の国々の金融不安が深刻化し、世界的な景気低迷によるリスク回避から商品全般に調整が入る中、結局26.34セントで当第2四半期連結累計期間を終了しました。

国内精糖市況につきましては、東京市場現物相場（日本経済新聞掲載、上白糖大袋1kg当たり。）は期初189～190円で始まりましたが、海外原糖相場の下落を受け、7月末に4円下げ185～186円となり、そのまま当第2四半期連結累計期間を終了しました。

かかる状況の中、当社グループは高品質で安心、安全な製品の安定供給を第一義とし、顧客満足度を一層高めるとともに、価格競争力の一層の向上に努めましたが、原材料価格の上昇から製造コストが増加したことにより、営業利益、経常利益ともに前年同四半期を下回りました。

以上のほか、保有有価証券の時価下落に伴い、1,789百万円の特別損失を計上しております。

その結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は以下のとおりとなりました。

当第2四半期累計期間	金額 (百万円)	前年同四半期比
売上高	15,454	9.5%増
営業利益	473	37.1%減
経常利益	677	27.1%減
四半期純利益	△580	※ —%

※ 前年同四半期は622百万円の利益であります。

また、セグメントごとの業績は次のとおりであります。

当第2四半期累計期間	売上高 (百万円)	前年同四半期比	セグメント利益 (百万円)	前年同四半期比
砂糖事業	14,272	10.3%増	883	28.0%減
バイオ事業	744	1.5%増	64	※ —%
不動産賃貸事業	437	0.7%増	56	16.3%減
調整	—	—	△531	—
連結損益計算書計上額	15,454	9.5%増	473	37.1%減

(注) セグメント利益の調整額△531百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△531百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

※ 前年同四半期は28百万円の損失であります。

①砂糖事業

販売数量につきましては、4～6月期は夏場の電力不足懸念に起因したユーザーの前倒し生産による需要増があり前年同四半期を上回りましたが、7～9月期は節電によるユーザーの生産調整もあり、結局、4～9月期では前年同四半期を下回りました。

売上高につきましては、当第2四半期連結累計期間には国内販売価格水準の上昇に伴い前年同四半期を上回りました。また、セグメント利益につきましては、工場の連続操業や節電などに取り組みコスト削減に努めましたが、原材料価格の上昇等から製造コストが増加し、前年同四半期を下回りました。

②バイオ事業

・オリゴ糖

家庭用は「オリゴのおかげ」の拡販を中心にブランド浸透に努めました。

業務用は、本年4月1日をもって家庭用と同じ「オリゴのおかげ」ブランドに統一し、ユーザーへの新規採用に向けた営業に取り組みました。

以上により、売上高は、家庭用、業務用ともに前年同四半期を上回りました。

・サイクロデキストリン（CDと略称。）

飲料、健康食品などの食品分野を中心に、ユーザーの新規採用に向けた販促に努めました。また、メタボリックシンドローム対応の機能素材の「サラシア属植物エキス末」の販促に取り組みました。

以上により、CD売上高は前年同四半期とほぼ同じとなりました。

③不動産賃貸事業

関西製糖株式会社への大阪工場設備の賃貸、ニューE S Rビル事務所の一部賃貸等を行い、所有不動産の活用に努めました。

研究開発につきましては、乳糖果糖オリゴ糖がインフルエンザ感染予防や感染後の症状軽減に効果があることを明らかにし、特許を出願いたしました。グルクロン酸の新製法に関しては、新規工業的生産技術のノウハウにつき継続して第三者への貸与等に努めました。また、抗がん剤「糖修飾パクリタキセル」をリポソームに包み込み、副作用を大幅に軽減し得る「がんミサイル療法」に関しては、引き続き実用化を目指して研究開発を精力的に進めました。

また、農林水産省からの研究委託事業として取り組んでいる、米粉を原料とした乳化機能を有する食品素材の開発につきましては、前期と同様に計画通りに研究成果をあげました。

バイオ製品（オリゴ糖、CDなど。）につきましては、一層の製造コストの低減と品質の向上に取り組むとともに、新たな機能の探索に努めました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べて1,306百万円減少し、26,442百万円となりました。これは主に投資有価証券の売却及び時価下落によるものであります。

負債合計は前連結会計年度末に比べて1,456百万円減少し、20,946百万円となりました。これは主に、借入金の約定弁済が進んだことによるものであります。

また、純資産合計は前連結会計年度末に比べて150百万円増加し、5,495百万円となりました。

これは主に、四半期純損失の計上により利益剰余金が減少した一方で、投資有価証券を減損処理したことにより有価証券評価差額金の負の計上額が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

第2四半期累計期間の業績及び下期の業績見通しを踏まえ業績の見直しを行った結果、営業利益及び経常利益ともに当初予想を上回る見込みとなります。一方、当期純利益については、保有株式の年度末の株価水準が9月末と同水準にとどまり第2四半期累計期間と同様に株式評価損による特別損失が発生すると想定して、業績予想に織り込んでおります。

なお、四半期における投資有価証券の評価につきましては、「洗替え方式」を採用しているため、年度末の株価水準により、特別損失の額が変動する場合もしくは特別損失を計上しない場合があります。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,152	1,119
受取手形及び売掛金	1,826	1,615
商品及び製品	796	1,022
仕掛品	194	157
原材料及び貯蔵品	1,520	1,690
未収還付法人税等	183	11
繰延税金資産	99	414
その他	1,172	1,074
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	6,946	7,106
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	9,339	9,367
減価償却累計額	△4,484	△4,615
建物及び構築物(純額)	4,854	4,752
機械装置及び運搬具	10,873	10,858
減価償却累計額	△8,706	△8,903
機械装置及び運搬具(純額)	2,167	1,955
工具、器具及び備品	365	371
減価償却累計額	△308	△319
工具、器具及び備品(純額)	56	52
土地	5,190	5,190
建設仮勘定	9	70
有形固定資産合計	12,278	12,021
無形固定資産	122	108
投資その他の資産		
投資有価証券	5,633	4,692
長期貸付金	1,187	1,322
繰延税金資産	1,484	1,099
その他	105	99
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	8,401	7,206
固定資産合計	20,802	19,336
資産合計	27,748	26,442

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,387	1,096
短期借入金	8,025	8,755
未払法人税等	29	38
未払消費税等	13	72
賞与引当金	65	67
その他	1,187	983
流動負債合計	10,708	11,013
固定負債		
長期借入金	9,934	8,212
退職給付引当金	1,272	1,240
役員退職慰労引当金	222	230
その他	264	249
固定負債合計	11,694	9,933
負債合計	22,403	20,946
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,750	1,750
資本剰余金	266	266
利益剰余金	7,422	6,706
自己株式	△3,116	△3,116
株主資本合計	6,322	5,606
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△912	△57
繰延ヘッジ損益	△65	△53
その他の包括利益累計額合計	△977	△111
純資産合計	5,345	5,495
負債純資産合計	27,748	26,442

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	14,109	15,454
売上原価	11,493	13,172
売上総利益	2,616	2,282
販売費及び一般管理費	1,864	1,809
営業利益	752	473
営業外収益		
受取利息	47	23
受取配当金	145	126
持分法による投資利益	87	112
デリバティブ利益	—	5
雑収入	27	38
営業外収益合計	307	306
営業外費用		
支払利息	110	93
支払手数料	10	3
デリバティブ損失	4	—
雑損失	5	5
営業外費用合計	131	102
経常利益	928	677
特別利益		
投資有価証券売却益	0	56
特別利益合計	0	56
特別損失		
役員退職慰労金	0	—
投資有価証券評価損	—	1,789
環境対策費	7	—
その他	0	—
特別損失合計	8	1,789
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	920	△1,055
法人税、住民税及び事業税	289	35
法人税等調整額	8	△510
法人税等合計	297	△474
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	622	△580
四半期純利益又は四半期純損失(△)	622	△580

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	622	△580
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△533	830
繰延ヘッジ損益	△19	11
持分法適用会社に対する持分相当額	△6	23
その他の包括利益合計	△559	866
四半期包括利益	63	285
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	63	285
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	920	△1,055
減価償却費	374	386
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△17	△31
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	19	7
賞与引当金の増減額(△は減少)	0	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	8	△0
受取利息及び受取配当金	△192	△150
支払利息	110	93
支払手数料	10	3
為替差損益(△は益)	△2	1
持分法による投資損益(△は益)	△87	△112
投資有価証券売却損益(△は益)	△0	△56
投資有価証券評価損益(△は益)	—	1,789
売上債権の増減額(△は増加)	△137	210
たな卸資産の増減額(△は増加)	△304	△358
その他の資産の増減額(△は増加)	15	167
仕入債務の増減額(△は減少)	△314	△290
未払消費税等の増減額(△は減少)	△99	59
その他の負債の増減額(△は減少)	△14	△211
小計	290	452
利息及び配当金の受取額	192	150
利息の支払額	△114	△96
法人税等の支払額	△260	△31
法人税等の還付額	—	183
営業活動によるキャッシュ・フロー	106	658
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△192	△108
無形固定資産の取得による支出	—	△2
投資有価証券の取得による支出	—	△0
投資有価証券の売却による収入	1	741
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△8	0
貸付けによる支出	△511	△560
貸付金の回収による収入	304	364
投資活動によるキャッシュ・フロー	△406	435

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	1,450	300
長期借入金の返済による支出	△1,049	△1,291
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△134	△134
財務活動によるキャッシュ・フロー	266	△1,125
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	△1
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△30	△33
現金及び現金同等物の期首残高	1,285	1,152
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,255	1,119

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

前第2四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,941	733	434	14,109	—	14,109
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	12,941	733	434	14,109	—	14,109
セグメント利益又は損失 (△)	1,226	△28	66	1,265	△512	752

(注) 1. セグメント利益の調整額△512百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△512百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	砂糖事業	バイオ事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,272	744	437	15,454	—	15,454
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	14,272	744	437	15,454	—	15,454
セグメント利益	883	64	56	1,004	△531	473

(注) 1. セグメント利益の調整額△531百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△531百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び研究開発費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。